

幸せの国・ブータンの メリーポピーたち

松永秀和

11 花を求めてブータン紀行

メコノプシス・プリムラ



ツォ・プー 標高 4380m



リンシ谷 標高 4450m



八重の花 ニュレ・ラの東 標高 4450m

メコノプシス・プリムリナは丈が10〜30cmで、地面から小首を傾けて立っている。一つの茎に一個の花が付き、基部には小さな葉がロゼット状に広がる。葉や茎には剛毛もあるが、他の青いケシほど強くなく、楚々としていてどことなく可愛い。花弁は通常、6弁だが、8弁や10弁のものあり、また4弁しかない花もある。名はサクラソウ（英語でプリムラ）に由来するが、サクラソウの色や形よりも、この可愛いな雰囲気似ているためにつけられたのであるうか。

チョモラリのベースキャンブ、ジャンゴタに近づくころから道端にポツン、ポツンと現れ始める。初めは数百メートルおきに現れていたが、その頻度は徐々に多くなり、ツォ・プー湖の周りでは数十メートル間隔で出現する。そして、ニュレ・ラ（峠）を越え、リンシ谷に入ると、1メートル以内は何株もの花が密集している。ここでは珍しい花ではなく、もうどこにもある普通の草花だ。

花は通常、谷側を向いて咲く。雨の日にはランブ状に花弁をすぼめ、また晴れた日にはパラボラアンテナのように大きく花弁を開く。風に乗って谷底から昇ってくる虫に雨宿り場所を提供したり、存在をアピールしたりして、受粉のため虫たちを最大限に利用する。